

審査講評

○採択されたプロジェクト

プロジェクト名：わらしべの家プロジェクト

提案者名：わらしべの家プロジェクト実行委員会

評価された点

- ・提案者の事業実現に向けた熱意はもとより、これまでNPO法人として同様の活動を行ってきた経験を生かした提案内容、地元商工会や既存の地域活動団体との良好な関係、協力体制の構築ができており、実現性が高い提案である。
- ・移住希望者がお試しで居住できるスペースの提供、職探しのサポート等、移住促進に資する具体的な提案がされており、今後の展開が期待できる。
- ・「右京じかん」というメディアを持っており、当該取組を広く発信するツールがあることから、当該プロジェクトを広く発信し続けることが期待でき、モデル・プロジェクトの波及効果が期待できる。

検討を要する点

- ・地域住民との具体的な連携内容を検討すべきである。
- ・長期的な運営を継続するため、施設の活用希望者が継続し続けられるサポートを充実するとともに、当該プロジェクトの専任の担当を現地に置く等、運営体制の強化が望ましい。

プロジェクト名：京北くろだ里の駅プロジェクト

提案者名：京北くろだ里の駅プロジェクト実行委員会

評価された点

- ・過疎化、高齢化が進む中山間地域に家族で移住し、自ら移住者のモデルになろうという熱意があり、地域の課題解決に向けた取組を盛り込んだ提案内容で公益性もあり、継続的な事業実施が期待できる。
- ・既に地域との関わりを積極的に持ち、SNSを使った情報発信を行っている実績があるため、まちづくり活動の担い手として地域だけでなく、地域外の方に対する波及効果も期待できる。
- ・建物の生い立ちや古い建物の保存も考えられた計画であり、黒田地域の新たな地域拠点となることが期待できる。

検討を要する点

- ・長期的な運営を継続するため、運営体制の強化が望ましい。

○不採択のプロジェクト

プロジェクト名：西鴻臚館の流れを組む知的交流拠点立上げプロジェクト

提案者名：鴻臚毅実行委員会

不採択の理由

留学生が地域活動やプロジェクトに参加でき、様々な体験ができる施設であり、これから益々発展が期待できるエリアでの提案であったが、次の点について提案が不十分であった。

- ・地域との連携という点において、地元商店街との具体的な連携内容が不明瞭
- ・プロジェクトの取組主体となる留学生についてのストーリー構築が甘く、留学生部門として応募したプランの実現性に疑問が残る。
- ・留学生と継続的に関わり続けるための繋がりやチャンネルが希薄で、提案内容全てを実現できるかどうかの検証が不十分である。
- ・収支計画の妥当性が見出せない。

プロジェクト名：小野郷のんびりプロジェクト

提案者名：小野郷応援団

不採択の理由

既に地域と繋がりがあり、地域の魅力発信に資する施設になりうるとの評価もあったが、次の点について提案が不十分であった。

- ・当該プロジェクトの活動主体が曖昧で、事業を10年継続して、適正に遂行できる体制を提案できていない。
- ・当該施設利用者の需要の分析や地域への波及効果、市街化調整区域内での空き家活用についての調査が不十分のため、提案内容が地域のまちづくりの一環として展開される可能性が低い。
- ・収支計画の妥当性が低く、事業を継続できるか不安がある。

※ 採択、不採択のプロジェクトそれぞれ、公開プレゼンテーションで提案者が発表された順に講評を掲載しています。

○全体講評（西垣委員長）

本プロジェクトは今年で3年目となり、今まで7件が採択されています。本日、3件あった「中山間地域の魅力発信部門」は、昨年度から始めた部門ですが、昨年に続いて、今年は3つ提案がありました。昨年度は、主に休日を活用したカフェやイベントの御提案でしたが、今回は、移住促進のための支援であったり、そのための情報提供を主とした御提案であったり、中山間地域の空き家活用の方法や取組が、一步前に進んだように思います。これから移住は増えていくことが予想され、将来的には日本人の働き方や暮らし方も変わっていくと思います。京都の都市部に住みながら、第二の家として中山間地域等に住む方も増えてくることが考えられます。そのような動きに根ざしながら、地域の方と移住を希望される方の接点になっていただきたいと思います。

もう1件は、昨年度から募集を始めた「留学生おこしやす部門」の御提案でした。留学生の支援や、留学生と地域の交流を生み出すような空き家活用の取組が京都で進められることは、大学にとっても、大変ありがたいです。今回の御提案では、留学生の国際的な文化と、ホームグラウンドである商店街との連携を一步進めた、京都ならではの空き家活用の提案でした。今後、このような空き家活用が増えていくことを期待しています。

今回は「自由テーマ部門」への応募は、残念ながら多くはありませんでしたが、今後、このような部門にも、京都ならではの歴史、文化、大学といったさまざまな資源を活用して、若者が集うまち、京都らしさを生かした新たなアイデアを、ぜひ提案していただきたいと思います。

この事業では、単に建物が再生され、有効に利用されるだけでなく、地域の活性化や、京都が誇る地域力の更なる向上など、「まちづくり」の観点を特に重視しています。その結果、今年度は、4つの提案のうちの2つを採択することになりました。

審査結果には、我々審査会の委員の得点に加え、公開プレゼンテーションにおいて来場者の皆様に投票していただいた結果に基づく得点も含んでおり、また、皆様に御記入いただいた各提案への意見も参考にいたしました。市民の皆様と一体感を持った審査を行うことができたと自負しております。

残念ながら、全ての提案を採択することはできませんでしたが、

不採択となった提案についても、それぞれに評価すべき点がありました。

採択された提案者におかれては、提案にさらに磨きをかけていただき、着実に実現していただきたいと思います。最後に、審査に参加いただいた市民の皆様の御協力に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。